

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		根拠法令・規程等	
事業開始年度	昭和58年度	健康増進法	
大項目	基本目標 02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問	担当課(室) 保健課
中項目	基本施策 02 健やかで生き生きしたまちづくり	合	職・氏名 健康係長・春名美郎
小項目	施策 02 成人保健(歯科保健を含む)	先	電話 64-1820
事務事業名	02 健康増進事業	このシート作成に要した時間 2.0 時間	

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	主に40歳以上64歳以下の市民
目的(何のために)	生活習慣病予防や健康づくりに関する事項について、正しい知識の普及啓発や適切な支援を行うことにより、市民の健康増進、健康寿命の延伸、医療費抑制を図る。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	・健診の受診や健康教育・相談への参加をきっかけに、市民自らが健康意識を高め、自分の健康は自分で守ることができるようになることを目指す。 ・市の健康課題である肥満について重点的に取り組み、適正体重を維持する市民の増加を目指す。

事業の実績		
細事業名	事業の説明	優先度
健康教育事業	健康づくりの正しい知識や生活習慣改善の実践方法を学ぶ教室を開催	
健康相談事業	心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な助言や支援を行い、家庭における自主的な健康管理を促す	
健康診査事業 (肝炎ウイルス検診)	40歳、41歳以上で今までに検査をしたことがない市民を対象に市内指定医療機関で実施	
(骨粗鬆症検診)	40・45・50・55・60・65・70歳の女性に集団検診で実施	
(健康診査)	生活保護受給者を対象に、生活習慣病を早期発見するための健診を実施	
(健康手帳の交付)	40歳以上の市民に交付。検診・相談等の記録や、健康管理に必要な事項を記載して自己管理し、自らの健康管理に役立てる。	

事業費等	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費	千円	13,231	5,281	6,601
必要人員	人	1.38人	1.29人	1.23人
事業費	千円	23,044	14,755	14,424
国庫支出金	千円	1,399	2,610	3,234
受益者負担		69	53	57
繰入金	千円			
市債	千円			
その他()	千円			
一般財源	千円	21,576	12,092	11,133
受益者負担比率	%	0.3%	0.4%	0.4%

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
健康教育・健康相談参加人数	人	2,817	2,840	2,491
対前年比	%	-	100.8%	87.7%
活動コスト	円	23,044,000	14,755,000	14,424,000
単位当たりコスト	円	8,180	5,195	5,790

事業の成果	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
BMI25以上の人の割合 {40~64歳(基準日年齢)}	目標値(A)	20	22.6	20	20
	実績値(B)	23.9	21.1	24.7	到達目標値
	達成率(B/A)	80.50%	106.64%	76.50%	20
成果指標設定の考え方・式や説明					
特定健診結果では、県より肥満率が高く大きな健康課題となっている。【実績値】特定健診結果 【H24目標値】【到達目標値】健康びぜん21目標値(目標年度H25) 肥満率の減少が指標となっているため、達成率を(1-(実績値・目標値)/目標値)*100に変更					

事務事業の評価	該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性 必要 市民ニーズ	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
効率性の評価	コスト 手段	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

進行年度(H25年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	市民の健康づくり意識の向上を図るため、健康びぜん21の評価や第2次計画の策定作業を通じて、市や地区の健康課題を明確にし、あらゆる機会を通じて情報発信するための基礎資料を作る。市中央での健康教室開催で参加者増を図るには限界があるため、吉永地区で試行的に実施する。内容については、地区の健康課題やニーズを十分に考慮して計画する。						

総合評価
H23までの地区健康相談は健康教育を同時実施していたが、H24は特定保健指導の利用者の向上を図るため、健診の結果説明と初回面接を重点的に行い個別相談のみとした。そのため、健康教育の参加人数が減少した。しかし保健指導の利用率は改善した。特定健診受診者が増えたことも影響してか、肥満率は悪化した。特に40代、50代男性の肥満が多く、肥満者に高中性脂肪や低HDL、高血圧者が多い。40代、50代男性をターゲットにしたメタボ対策が急務であるが、教室・相談への参加が少ない。参加しやすい体制づくりとともに、市民の健康意識の底上げに取り組む必要がある。
総合評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

平成26年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	市民の健康づくり意識の向上を図るため、より多くの市民にあらゆる機会を通じて市や地区の健康課題を情報発信する。また、健康課題の改善に向け、より効果的な健康教室・健康相談の方法を検討し、実施する。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標で成果指標に留意しな